

2015年度 事業活動報告

I 食のセーフティネット事業（食料支援）

1ヶ月に2回の個人への食料支援では、309世帯へ、延べ2724件、約30トンの食品を宅配便でお送りしました。

また、個人宅配とは別に、緊急的に食料支援が必要な場合に、行政福祉課などを通して直接手渡しする緊急食料支援は311回、約5.4トン提供しました。これまでに、利用者からの返信はがきは約2500通となり、孤立しがちな生活困窮者と社会との絆をつくりました。

さらに、子どもの貧困防止対策として、子どものいる困窮世帯を食料支援で支える、全国初の「フードバンクこども支援プロジェクト」を実施しました。

1 個人宅配

- (1) 1ヶ月に2回（第2・4週）の個人宅配発送を維持し、309世帯へ、延べ2724件、約30トンの食品を宅配便で配送しました。1ヶ月あたりでは、平均227件へ約2.5トンの支援を実施し、1件当りの食品重量は10.8kgになりました。別添資料 1・2・3
- (2) セタ・十五夜・クリスマス・バレンタインなど季節に応じた企画を食品とともに同封し、社会との絆を回復する支援を行いました。
- (3) 困窮世帯への相談支援の際に、希望する食品について伺い、個人宅配発送の際に、可能な限り利用者のニーズに沿った食品を発送しました。

2 緊急食料支援

- (1) 個人宅配とは別に、緊急的に食料支援が必要な場合には、全県下の自立相談支援窓口や団体を通して、発送日でなくても直接手渡しする緊急食料支援で対応し、延べ311回、約5.4トンの緊急食糧支援を実施しました。別添資料 4

3 心の交流と個別ファイルによる情報管理

- (1) 食品とともに、手書きの手紙と「ふーちゃん通信」を毎月1回ずつ入れ、心の交流と情報の提供を継続して行いました。**別添資料 5、6**
- (2) 利用者からの返信はがきは、これまでに約2500通となり、支援が必要なケースでは本人に連絡を取り、相談支援につなげました。**別添資料 7**
- (3) 支援経過を個別ファイルに記録・保管し、必要な場合は自立相談窓口と連携しました。

4 子どものいる世帯の支援を強化

- (1) 特に長期休暇中の子どもの欠食を防止するために、夏休みに「フードバンクこども支援プロジェクト」を実施し、8月に毎週1回、計5回の食料支援を行いました。**別添資料 8**
- ・冬休みには、食品とともにクリスマスプレゼントを贈りました。
 - ・小林製薬株式会社との連携により母子家庭支援の「青い鳥こども支援プロジェクト」がスタートしました。
 - ・春休みには、米とお菓子を増量し、配送回数を増加して対応しました。
- (2) 必要な世帯には学習支援の情報や利用できる制度の資料（就学援助、低額医療制度など）をお送りし、各種支援制度につなげました。



フードバンクこども支援プロジェクトにたくさんの共感が寄せられました

Ⅱ 自立相談支援事業

8市（南アルプス市・中央市・笛吹市・山梨市・都留市・上野原市・富士吉田市・大月市）より事業委託を受けました。

支援対象者に訪問相談や電話相談、手紙の発送など、延べ3123回の支援により信頼関係を構築し、相談者の意向に基づいて情報の提供、行政機関への同行支援等を行いました。

1 生活困窮者への相談支援

- （1）食のセーフティネット事業利用者について、各市の自立相談支援窓口からの依頼、返信はがきの内容、新規利用者の現状記入欄の状況等から、相談支援が必要な世帯へ訪問・電話・手紙での支援を行いました。118件ある相談内容の中で、「収入・生活費についての悩み」が27件と最も多く、全体の22%を占めました。

2 自立相談支援窓口との情報交換

- （1）自立相談支援窓口から、食料支援利用者の配送状況や相談支援で得た情報の提供依頼があった際は、本人の了解を得て情報共有しました。

3 多様な機関との連携

- （1）相談者の意向に基づいた支援を行いました。
- （2）専門的知識を必要とする困難な事例については、弁護士と連携し、解決を図りました。
- （3）子どもの貧困について、スクールソーシャルワーカーと連携しました。

Ⅲ 生活困窮者就労準備支援事業

2015 年4月から始まった生活困窮者自立支援制度において、生活困窮者就労準備支援事業を南アルプス市と中央市の2市から受託し、自立相談窓口からの紹介者に対して、就労準備支援を行いました。

14人の参加者がチューリップイベントやファーム、法人内ボランティア活動などに、延べ499回参加しました。活動を通して前向きに生きる意欲や自発性が生まれ、短期就労に参加した方もいました。また、アンケート調査から企業開拓を行ない、困窮者の就労体験・短期就労の場につなげました。

課題として制度対象者と協力企業数が少なかった点が挙げられます。

1 制度対象者への就労準備支援と困窮者への支援

(1) 以下のメニューを活用して就労準備支援事業を行ないました。

① フードバンクファーム

- ・「2015 年度 JT NPO 助成事業」の助成を受けて、実施することができました。
- ・曲輪田ファーム（21回）と汗かき農園（52回）の2か所にて、延べ73回の活動を行ない、参加者の信頼関係の再構築とコミュニケーション能力の向上を図りました。
- ・支援対象者が5人と少なかったことが課題として残りました。
- ・4月18日（土）、第3回チューリップ摘み取りイベントを曲輪田ファームにて開催し、328人の来場者がありました。2015 年は100円以上の寄付を募ったところ、99、971円の寄付金をお預かりしました。
- ・南アルプス市から管理業務を委託された汗かき農園では、区画仕切り用の丸太交換・ウェルカムフラワー植付けや野菜の収穫等、曲輪田とは異なるメニューを提供し、市民との交流の機会になりました。

② 法人内ボランティア

- ・食のセーフティネット事業にて、食品袋詰めや賞味期限チェック等の活動に延べ182回参加しました。
- ・複数のボランティアさんと一緒に活動することで、人間関係やコミュニケーションスキルの改善を図りました。

③ ビジネスマナー・身だしなみ

- ・ビジネスで必要とされる、電話応答の仕方やコーヒーの入れ方を訓練しました。

2 職場体験と短期就労受け入れ企業の開拓

- (1) 倉庫内での荷物の積み下ろしという内容の職場体験受け入れ企業を1社確保しました。
- (2) 2社から短期就労の機会を提供いただきました。
- ・5月から10月にかけて、石拾いの短期就労に延べ79回参加しました。
 - ・2月に薪揃えの短期就労の機会がありましたが、ご本人の都合により実施されませんでした。

3 無料職業紹介事業

- (1) 平成28年1月1日付けで、事業が許可されました。

許可番号 19-ム-300008

名称 フードバンク山梨無料職業紹介所

平成28年度実績 有効求人数 1人

- (2) 3月に届出所在地を有野事務所から百々事務所に移しました。



南アルプス市小笠原から南アルプス市百々へ移転した新事務所

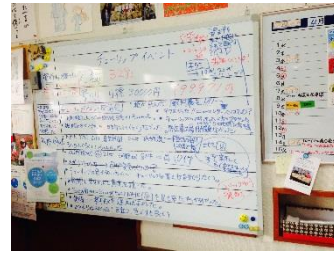
チューリップイベント



当日の様子



当日の様子



振り返り

汗かき農園



防腐剤塗装



玉ねぎ苗植付け



レクリエーション風景

ボランティア活動



食品搬入



お米の袋詰め



食品箱詰め

短期就労



石の運搬



収集



薪作業場

Ⅳ 市民によるフードバンク活動への参加促進

2015 年度では、「フードバンクこども支援プロジェクト」をはじめとして、市民の方々が参加する機会を多く設けました。

また、毎年実施しているフードドライブでは、フードバンク山梨主催のものに加え、企業、学校などの団体が内部で実施し、集まった食品をフードバンク山梨に寄付していただくことが増えました。

フードバンク活動が市民の皆様の中で広がりはじめた事が実感できました。

1 フードドライブ

- (1) 「第 1 回フードバンクこども支援プロジェクト」の開催により、東京エレクトロン山梨株式会社など 13 の連携団体や企業がフードドライブで集めた食品を寄贈くださり、利用食品数量が確保できました。
- (2) 第 11 回フードドライブ（12月3日～12月7日）では、フードバンク山梨主催のフードドライブに加え、8 の団体・学校からの寄付により、約6トンの食品を集めることができました。
 - ・このフードドライブでは、11 月に発足した全国フードバンク推進協議会の取り組みとして実施された「全国フードドライブキャンペーン」にも加盟団体として参加しました。キャンペーンに参加した他 11 団体とともに、日本国内でのフードドライブ活動の広報にも努めました。



フードドライブで集まった食品と食品の仕分けボランティアのみなさん

- (3) 団体や企業などへの協力を呼びかけ、活動の周知、拡大に努めました。
フードバンク活動が県内で広まりを見せた結果、企業や学校などの団体が
率先してフードドライブを実施し、フードバンク山梨に食品を寄贈いた
だきました。



フードドライブを実施した
山梨英和大学のみなさん

2 きずなBOX

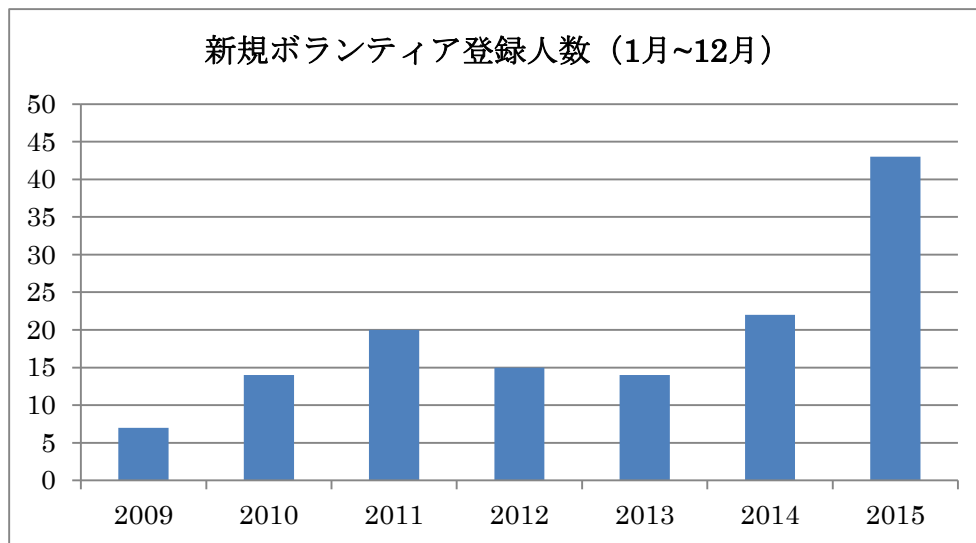
- (1) 引き続き 2 社 15 店舗で実施し、1,641kg の食品寄贈がありました。
・設置店の開拓、集荷などのシステムの改善には着手できませんでした。

3 多様なボランティアの受け入れ

- (1) 2015 年度は、「フードバンクこども支援プロジェクト」への参加募集な
どにより、合計で 30 名の新規ボランティア登録がありました。
・1 年間の登録者数は過去最高となっており、特に学生など若年層の参加が
目立ちました。
・ボランティア募集から受け入れ、連絡などのシステム整備を進めました。
・「フードバンクこども支援プロジェクト」のスタートイベントでは、県外
の大学生の参加もあり、合計 46 名の方がボランティアとして配送食品の
箱詰め作業に参加してくださいました。



7 月 31 日開催のスタートイベントで
箱詰め体験をするボランティアのみなさん



(2) 大学生のボランティア参加やフードドライブの実施があり、若い世代のフードバンク活動の参加を促進しました。

- ・山梨英和大学のボランティアグループに、「フードバンクこども支援プロジェクト」における子ども向け配布物作成への協力や、学校内でのフードドライブを実施していただきました。



山梨英和大学学生のみなさんとの打ち合わせ



「フードバンクこども支援プロジェクト」
でお送りした「こどもしんぶん」
山梨英和大学の学生さんには、クロスワード
パズルの作成にご協力をいただきました。

V 子どもの貧困対策

全国初の試みである「フードバンクこども支援プロジェクト」に取り組み、給食のない夏休みの困窮世帯の子どもたちの心身の健康を支援しました。共感の輪が広がるとともに、高校など学校現場でのフードドライブの取り組みが増えましたが、子どもの貧困対策の中で食料支援が位置付けられるためには、さらなる働きかけが必要です。

1 子ども対象の支援の検討

- (1) 教育に携わる団体とつながり、支援を検討し、モデル的に実施することができました。
- ・「フードバンクこども支援プロジェクト」では、山梨県教育委員会のSSW（スクールソーシャルワーカー）からの食料支援申請に加え、小学校経由の申請も受け付けました。
 - ・夏に実施した「第1回フードバンクこども支援プロジェクト」では、毎週1回（5週連続）の食料支援に加え、こども新聞を毎回発行することで、夏休みの子ども達に楽しみもお届けしました。
 - ・冬の「第2回フードバンクこども支援プロジェクト」では、クリスマスプレゼントを同封し、食品も多めに2箱の食料支援を送りました。
 - ・「フードバンクこども支援プロジェクト」の中で、「食と生活に関するアンケート調査」を新潟県立大学 村山伸子教授とともに実施することができました。
- (2) 「フードバンクこども支援プロジェクト」による食料支援を強化したため、2014年度のような他団体との連携によるフードバンクキッチン（困窮世帯の子どもを招いた料理教室）などは開催できませんでした。

2 教育プログラムの推進

- (1) 学校での講演会開催の呼びかけは実施できませんでしたが、高校の生徒会やPTAなどでのフードドライブの取り組みが増えました。
- ・山梨英和中学校・高等学校、白根高校、巨摩高校、甲府東高校、甲陵高校



高校の生徒会がフードドライブを実施、届けてくれました。

Ⅵ 次世代にフードバンク活動を定着させるための取り組み

全国各地のフードバンク団体と連携して準備を重ねてきた「全国フードバンク推進協議会」を設立することができました。全国の力を合わせて、フードバンクの定着をめざす環境が整いました。

また、広報活動を強化し、事業への協賛など寄付を増やすことで、フードバンク山梨の基盤強化に取り組みました。

1 アドボカシー活動（政策提言）

（１）全国各地のフードバンク団体と連携して、食品ロス削減と貧困問題解決への寄与を目的に、「全国フードバンク推進協議会」を設立しました。

- ・2015年11月13日（金）東京にて設立総会と記念シンポジウムを行いました。
- ・設立時は11団体の加盟でしたが、3月末で16団体に増加しました。



設立記念シンポジウム

（２）山梨県内の自治体に対して、食料支援事業の提案を行いました。

- ・2015年度下期（10月～3月）には、山梨県より「山梨県生活困窮者自立支援緊急対策事業」を受託しました。自立相談支援機関と連携し、食料支援を活用した生活困窮者の自立支援に取り組みました。
- ・2016年度に向けて、県内13市と県（町村部対象）に対して、生活困窮者自立支援法に基づく相談支援事業と地方創生に基づく食料支援事業という2種類の提案を行いました。

（３）関係省庁に対して、フードバンク活動を推進するための働きかけを行いました。

- ・フードバンク山梨が把握している子どもの貧困の実態や食料支援の有効性について子供の貧困対策担当大臣に説明しました。その結果、内閣府が推進する「子どもの未来応援プロジェクト」で実施される取り組みの一つとして、フードバンクによる食料支援が位置づけられました。

2 広報・認知度アップ

- (1) フェイスブックやツイッターを活用し、情報発信を強化しました。
- ・「ソロプチミスト日本財団」の活動助成により、ホームページをリニューアルしました。HP 訪問者が必要とする情報にたどり着きやすくなり、問い合わせフォームを設けたことで、問い合わせ件数も増加しました。
 - ・2015 年度は、ニュースレターではなく、活動報告書を作成し、会員や寄付者に配布しました
- (2) 積極的なプレスリリースを行うとともに、直接マスメディア関係者に取材要請を行いました。
- ・その結果メディア掲載実績はテレビ・ラジオ報道 46 件、新聞・広報誌掲載 126 件となりました。平均すると 1 週間に約 1 回のテレビ報道、3 日に 1 回の新聞報道等があったこととなります。また、認知度向上とともに、講演や視察の依頼が増加しました。別添資料 11

3 組織基盤強化の取り組み

- (1) パナソニックNPOサポートファンドを活用し、NPO 法人 bond place の小笠原祐司氏を講師に招き、独自に研修を実施しました。
- ・中間管理職研修を実施、その後、「寄付・会費収入の増加」を題材として全体研修を行い、ファンレイジングに関する戦略を策定しました。
- (2) 2015 年 1 月に開始した緊急寄付活動を起点として、新たにフードバンクこども支援プロジェクトと連動して寄付を呼びかけるなど、2015 年度を通じて寄付活動を継続させました。
- ・企業訪問や活動報告書の配布、Facebook での寄付呼びかけ等を行ないました。
 - ・全国放送のニュース番組などで取り上げられたことによる報道の影響もあり、目標としていた 2000 万円を達成することができました。

正会員数	99 人	正会員会費	855,000 円
賛助会員数	94 人	賛助会員会費	571,000 円
特別法人会員	3 社	特別法人会費	2,100,000 円
		合計	3,526,000 円

4 新規協力企業の開拓

(1) 食品や活動資金の寄付を新規企業へ幅広く呼びかけました。

- ・食品提供を受ける同意書締結企業は、12 社増えて、51 社となりました。
- ・夏に実施した「第 1 回フードバンクこども支援プロジェクト」では、17 企業・団体からの協賛をいただきました。
- ・小林製薬株式会社からの寄付により、母子家庭支援の「青い鳥こども支援プロジェクト」を新たに立ち上げました。



青い鳥こども支援プロジェクト
スタート！！

**小林製薬株式会社**
×
NPO法人フードバンク山梨

青い鳥こども支援プロジェクト

**小林製薬株式会社とフードバンク山梨が
協同で食品をお送りします！**

小林製薬株式会社とNPO法人フードバンク山梨は、次世代を担う全ての子どもたちが、未来に夢と希望を持ち、健やかに育つことを願って、「青い鳥こども支援プロジェクト」を開始しました。

小林製薬株式会社の支援により、フードバンク山梨が食品を集め、パッケージしてお送りします。



お問い合わせ：
NPO法人フードバンク山梨
電話 055-282-2011
〒400-0306
南アルプス市小笠原317
サンシャインビル1F

子どものいる世帯への食料支援に
同封したお知らせ

Ⅶ 食品管理と施設配送

食品管理においては、年度末に新たな倉庫を確保することができ、これまで複数の場所に点在していた倉庫や作業場を一箇所に集約することができました。

これにより、倉庫間の移動がなくなり、食品管理を一括して行うことが可能となり、食品の状況を迅速に把握できることに加え、施設への食品配布の拠点として活用することができるようになりました。

1 食品管理の徹底

(1) 2015年度は企業、市民の皆様からの寄付食品が合計 78,957kg でした。

- ・食のセーフティネット事業では、毎月平均約 2.4 トンの食品を使用しました。1 ヶ月に使用可能な食品重量は平均すると約 6.5 トンなので、安定的に食品配布をすることが出来ました。
- ・適正に食品を管理・維持するために、ホームページ等で提供食品に関する情報を提示し、衛生的な管理に努めました。

別添資料 9・10

ホームページに掲載した
寄付食品の注意事項

🍎 食品の寄付/ご寄付のお願い

まだ食べられるもったいない食品大募集!!

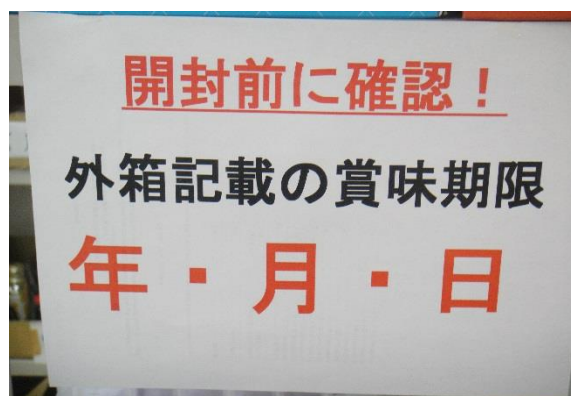
【急募：レトルト食品・缶詰・パスタ】

- ・お米：受け付けております。30kg以上のご寄付をご検討の際は、事前にお問い合わせください。
- ・防災品：受け付けております。（賞味期限がおおよそ1ヶ月以上あり、未開封のもの）
- ・お菓子：受け付けております。（賞味期限がおおよそ1ヶ月以上あり、未開封のもの）
- ・お野菜：根菜類で日持ちするものを受け付けております。
- ・離乳食：受け付けております。（賞味期限がおおよそ1ヶ月以上あり、未開封のもの）
- ・その他：受け付けております。（※生鮮品・冷凍品は保管の関係上、受け付けておりません）

※誠に恐れ入りますが、宅配便または直接のお持ち込みをお願いしております。

～まずはお気軽にお問い合わせ下さい～

(2) 企業からいただいた食品については数量、賞味期限などを記録し、入出庫を正確に把握するとともに、トレーサビリティの迅速な発行に取り組みました。また、賞味期限の誤認を防ぐ取り組みを行いました。



賞味期限チェックの注意事項の掲示

2 施設配布の効率化

(1) 2015 年度は、59 の施設・団体に対し、合計 19,027 品の食品を提供しました。

- ・施設への食品配布に関しては、施設情報を活用し、月 1 回の一斉配布により効率的かつ迅速な食品提供を行い、食品ロス削減に取り組みました。
- ・パンの受け渡しについては、食品企業と施設との直接の食品提供に切り替えました。

食品提供団体一覧

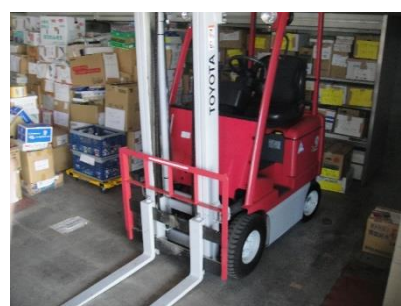
- ・あいむ ・あさひワークホーム ・あさひ鰯桜苑
- ・アドバンテージあさひ ・あゆみの家 ・アンサーノックス
- ・イノヴェ学園 ・おひさま ・きがる館 ・ぎんが工房 ・くずはの森
- ・くにみ会（くにみ園） ・クローバー学園 ・ケアハウスあさひ鰯桜苑
- ・こどもサポートやまなし ・こぶしの会 ・ステップ増穂 ・たんぽぽ
- ・どんぐりの家 ・どんぐり牧場 ・ハーベスト ・ひとふさの葡萄
- ・ひまわりの家 ・みっちゃん家みのぶ ・みらいコンパニー
- ・むぎの穂デイサービス ・めぐみ園 ・めだかの学校
- ・やまなしライフサポート ・やまなし福祉作業所 ・ゆあーずあんどゆうず
- ・リベルタ ・ワークハウスふたば ・ワークハウスみどりの家
- ・わらべうた ・鰯沢デイサービス ・甲斐志摩の里ファーム ・山梨ダルク
- ・支援センターみさき ・勝沼授産園 ・信和会(わ〜く穴山の里)
- ・雀のお宿 ・成実作業所 ・聖ヨハネ学園 ・青い鳥支援センター
- ・青空の会 ・蒼溪会ケール ・蒼溪会サヴァ ・乳児院ひまわり
- ・ハケ岳名水会 ・富士五湖ダルク ・敷島緑陽園 ・福音教会 ・梨の実寮
- ・立正光生園 他 4 団体

3 新たな倉庫の確保と、食品保管能力向上

(1) 新たな倉庫を確保し、食品保管能力向上を実現しました。

- これまで複数の倉庫に保管していた食品を一本化し、全体の在庫状況を確認しやすい体制を確保することができました。
- 個人への食料支援の発送作業や施設への食品提供も倉庫 1 か所で行えることとなり、作業を効率的に円滑に進めることができました。
- 2016 年 2 月から新倉庫での食品受け渡しを実施し、倉庫移動から 3 月末日までに約 500kg を提供しました。
- 「ドコモ市民活動団体への助成」により、フォークリフトを導入することができました。

新倉庫と作業風景。これまでよりも広い作業場所を確保することができ、より多くのボランティアさんの参加ができるようになりました。



助成により購入したフォークリフト